

WASLI(世界手話通訳者協会)

会長リズ・スコット・ギブソン氏講演会報告

日 時：2010年5月5日（水）13：00～16：00

場 所：（社福）全国手話研修センター コミュニティ嵯峨野

主 催：全国手話通訳問題研究会・（財）全日本ろうあ連盟



【実施報告】

2010年5月5日（水）、ゴールデンウィークの最終日に世界手話通訳者協会会長のギブソン氏を迎え、全国手話研修センターに於いて講演会と鼎談を開催しました。これは、日本手話通訳士協会創立20周年の記念講演に來日されるのに合わせ、全通研と全日本ろうあ連盟の共催で開いたものです。当日参加を含め134人の参加がありました。



13時から14時30分まで、「ろう者と通訳者の連携」をテーマにギブソン氏の基調講演がありました。パワーポイントを使用した講演は丁寧でわかりやすく、各国ろう者組織からWASLIへの質問を具体的に紹介したり、WASLIの方針は各国の通訳者組織は自国のろう者組織と連携して活動することなど話されました（左写真）。

また、「理想的な通訳者に必要なのは言語力、通訳技能、倫理的責任、文化に対する感受性、対人関係能力、柔軟さ、信頼性、他人に対する敬意、ユーモア」というところなど、共感できる部分が多くありました。

質問もいくつか出され講演会は10分延長し、休憩をはさんで14時50分からギブソン氏、石野全日本ろうあ連盟理事長（右写真：左端）、近藤全通研副運営委員長（右写真：右から2番目）の鼎談が4時過ぎまで行われました。基調講演を深める形で「ろう団体と手話通訳者団体の協働について」のテーマに沿ってのトークです。



最初に石野氏と近藤氏からろう運動の歴史や全通研設立の経過についての発言があり、その後近藤氏のコーディネートで通訳者養成やろう団体との共同行動などについて、意見交換がありました。また、適宜フロアからの発言を求めるなど、参加者と一体になった鼎談が繰り広げられました。

情報保障をどのようにするかは、当初から課題でした。ギブソン氏には英語で話していただき、日本語に通訳し、それを手話通訳するというリレー通訳を予定していました。日英通訳は全通研国際部員が、手話通訳は全日本ろうあ連盟と全通研職員が担当するとし、準備を進めてきました。



しかし、当日の打ち合わせで、やはり参加者はギブソン氏の手話も見たいのではないかということになり、急遽、全日本ろうあ連盟の宮本国際部長（左写真：左手前）に国際手話通訳をお願いし、基調講演の自己紹介のところを「国際手話—日本手話—読み取り・聞きとり通訳」という方法に変更しました。それ以降は、当初予定していたリレー通訳にしたのですが、参加者のみなさんはいろいろな通訳を見られ、その点でも満足されたようです。

5月3日に東京に到着し、4日は手話通訳士協会の記念行事に参加、5日の午前中に京都に移動し、研修センターに着いた途端に昼食と打ち合わせ。13時から本番と、ギブソン氏には非常に厳しいスケジュールとなりました。疲れていらっしゃるだろうと思うのですが、そんな気配はみじんも見せず、強制的にストップするまで参加者とにこやかに話し、17時からのパーティーでも日本食と交流を楽しんでいたギブソン氏のパワーに圧倒された1日でした。

そして、何よりアイスランドの火山の噴火が落ち着いて来日が実現したことにホッとしたのでした。（全通研国際部）

